令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　阿倍野

学 校 名　　長池小学校

学校長名　　高尾　祐彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・　　学校では、第６学年　　名

学校名　長池小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科ごとの平均正答率は、全国平均を１とした場合、国語は、0.975、算数は、1.088という結果であった。また、平均無解答率については、国語は大阪市を下回っており、算数は大阪市・全国を下回っており、国語・算数ともに無回答率は低い。
学習指導要領の内容別では、国語は、(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項、(3) 我が国の言語文化に関する事項、「C 読むこと」は全国を上回っているのに対し、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」については平均を下回っている。 算数では、「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「D 変化と関係」「E データの活用」すべての領域で、全国平均を４～７ポイント上回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
今年度の調査結果から、条件に合った文章を書く問題や文の構成に関する問題については正答率が高く、これまで取り組んできた書く活動、書く意欲を高める活動を工夫してきた成果だと考える。一方では、漢字の活用、書かれている内容を読み取り、伝えたり比較したり説明したりすること、登場人物の心情等を読み取ることに課題が見られた。

［算数］
「A 数と計算」「B 図形」「C 測定」「D 変化と関係」「E データの活用」のいずれの領域も、全国平均を上回っている。現在、基礎基本の定着、個に応じた支援、「楽しい」「分かる」喜びを体感できる授業づくりをめざした教育実践に取り組んでいる。
基礎基本の定着においては、ブロック学力推進事業予算による教材を活用し、教科学習の振り返りや定着を図っている。
また、授業づくりにおいては、「学力向上支援チーム事業」スクールアドバイザーの指導を受けながら、研究授業の実施や授業改善を進めている。

質問調査より

本校の大きな課題として、(27)「５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の通り、学習者用端末の活用が進んでいない、学習に生かされていないことがあげられる。また、(33)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか（-4.8ポイント）」についても、まだまだ改善の必要がある。さらには、(44)「国語の授業の内容はよくわかりますか（-6.3ポイント）」(52)「算数の授業の内容はよくわかりますか（＋5.6ポイント）」の結果が、そのまま学力調査結果にも表れている。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、昨年度までの２年間、国語科において、主体的に学ぶ姿を追求する中で、「対話的な学び」「書く意欲を高める」ことに焦点を当てて研究を行ってきた。各学年で授業研究を中心とした実践を行い授業改善に取り組んできた。その結果、国語の学習時だけでなく、各教科・領域での学習において、ペアトークやグループでの話し合い活動が定着している。また、全学年で作文や日記指導に取り組み目的を持たせて書くことや書く意欲を高めるための実践に取り組んできた。今後はさらに、現在の取り組みを継続・発展させていく。

算数科については、基礎基本の定着、個に応じた支援、「楽しい」「分かる」喜びを体感できる授業づくりの取り組みをさらに充実させる。加えて、授業における導入や問題と出会う場面において、子どもに「なぜ？」「どうして？」を持たせる工夫を行うことや既習の知識や経験を生かして学習の見通しを持たせることを大切にし、子どもがより主体的に学べる算数科の指導を追求していく。

また、学習者用端末を活用し、デジタルドリルの活用、学習の記録や振り返り、意見や考えの共有等を行うことで、子どもの学びを広げ深められるようにしていく。